

菱輝金型工業株式会社

「飛び込んでいく精神」で自動車から航空機、核融合設備へと事業分野を開拓

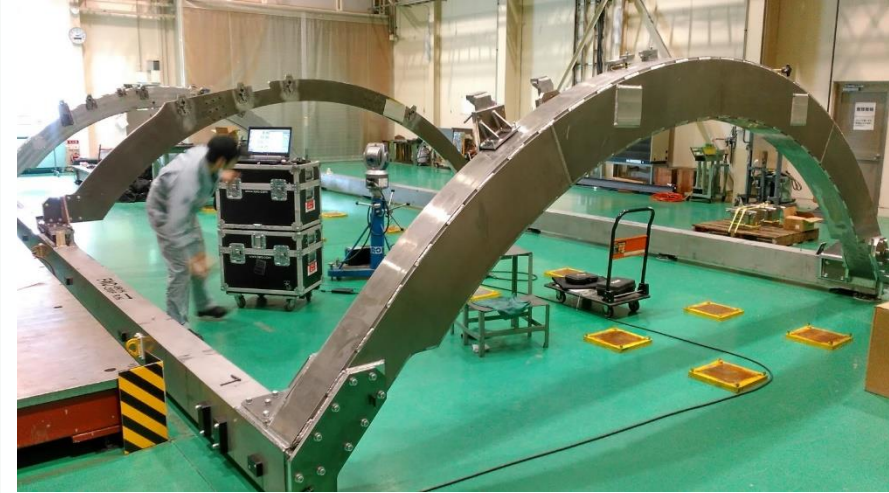
「値決めできない仕事ばかりでは、長く会社を続けられないと思い、若さ故の無謀さもあって、徐々に業態を変えていった。飛び込んでいく精神が一番。航空機の会社に飛び込み営業をかけ、テロを警戒した守衛に止められたこともあった。（代表取締役社長 原 康裕氏）」

○事業展開の背景、効果・反響

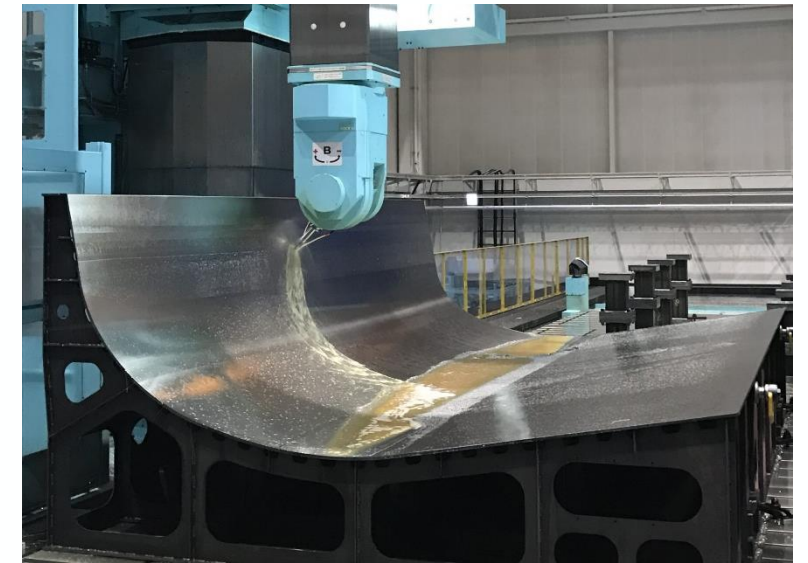
- ・自動車向けプレス金型の会社として創業。自動車関係が売上の8割を占めた時代もあったが、金型の付加価値が認められにくく、価格低減要請の渦に巻き込まれることや、部品共通化による需要減少に危機感を抱き、徐々に新規事業分野を開拓。
- ・大物金型や組立治具等を製作できる強みを活かし、新たな事業の柱として航空機向け金型・部品製造事業に参入。当初は飛び込み営業で仕事を取り、大企業と競合しない50億円以下の規模の市場を狙って事業を拡大し、航空機複合材分野においてトップシェアを獲得。参入当初は現場の大ブーイングがあったが、成功・失敗体験を多く積む中で、「面白そうなのでやってみたい」と応じる人材が育つようになった。
- ・着実な成長の中でも幾度となく危機を経験。特に、2021年は海外航空機メーカーの品質問題や新型コロナウイルスの流行などが立て続けに発生し、トップシェアを維持していても「何も仕事がなく、作りたくても作れない」状況に直面。新幹線、レーザー加工機の量産部品やインフラ向け工業製品など、仕事の幅を広げることで勝ち残っている。

○今後の展開

- ・継続して新事業分野を模索。研究施設への飛び込み営業がきっかけとなり、2024年から核融合のベンチャー企業との共同開発を開始。核融合設備の製品の切削設計に携わる。



航空機組立用治具(全長9m) (出所：菱輝金型工業(株)HP (<https://recruit.ryoki.co.jp/works/#caset3>))



航空機のドアパネル生産用金型(全長6m)
(出所：菱輝金型工業(株)HP (<https://recruit.ryoki.co.jp/works/#caset3>))

<企業情報>

所在地：愛知県一宮市多加木二丁目8番21号
代表者：代表取締役社長 原 康裕
創業：1954年

従業員数：130名
資本金：5,000万円
事業内容：航空宇宙関連事業、産業機器部品製造等
HP：<https://www.ryoki.co.jp/>